

授業科目名： ゴルフ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：杉本 光公 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 ゴルフの知識・手段を修得し、生涯にわたって自主的に運動に取り組む習慣を身につける。			
授業の概要 生涯スポーツとして、ゴルフのスイング、道具の選び方を学ぶ。またコースに出ることによって、実際のプレーを体験し、将来社会人の持つべき教養の一つとしてのゴルフを身につける。また、グループでゴルフの練習方法などのディスカッションを通して深くゴルフを理解するとともに、ゴルフ場でのマナーを学び、生涯にわたってゴルフを楽しむ素養を養う。			
授業計画			
初日 第2体育館			
1	オリエンテーション（第2体育館）		
2	スイングの基礎1（スタンス、グリップ）		
3	スイングの基礎2（コックからフルスイング）		
4	フルスイングの基礎1（第2体育館）		
2日目 第2体育館およびゴルフ練習場			
5	フルスイングの基礎2（7番アイアン）		
6	フルスイング（ドライバー）		
7	ゴルフ練習場で練習（松本中央ゴルフ）		
3日目 松本カントリークラブ			
8	アプローチ		
9	パター		
10	ルールとマナー		
11	コースの攻め方		
12	ハーフラウンド		
4日目 松本カントリークラブ			
13	1ラウンド（午前）（松本カントリークラブ）		
14	1ラウンド（午後）（松本カントリークラブ）		
15	まとめ（最後の15分 授業アンケート）		

授業15回相当
テキスト 杉本光公、速水達也、 廣野準一、 加藤彩乃 健康のためのウォーキング&ジョギング-身近な運動で元気なカラダづくり-、 三恵社、 2020
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 授業に積極的に参加し、ゴルフのルールとマナーを修得し、ゴルフコースを他人に迷惑をかけずに、安全にラウンドできるようになれば、可とする。 さらに、適切な状況判断を行え、パーを一つとれた場合は良とする。 さらに、パーを二つ以上とれた場合は、優とする。 パーを2つ以上取りルールに精通し、マナーの模範となれるものを秀とする

授業科目名： スノー・スポーツ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 杉本 光公、速水 達也、 廣野 準一、加藤 彩乃
			担当形態：複数
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
生涯スポーツとしてスキーマの知識・手段を習得し、独り立ちできるスキーヤーになる。			
授業の概要			
菅平高原においてアルペンスキーのグループ・ワーク授業である。本実践演習は、技術レベル毎に分かれディスカッションを通して問題や課題を発見し解決法を探りながら学習していく。			
授業計画			
(1) 決定者ガイダンス (下記時間帯で随時受付、所要時間10分ほど) パソコン登録 (レンタルなど) と経費納入			
(2) 直前ガイダンス (昼食取りながら・出欠時数に入る)			
(3) 実践演習行動スケジュール			
初日	午後 13時-16時半	スキー実習 (授業2回相当)	
	夜 19時-20時半	講義 (授業1回相当)	
2日目	午前 9時-12時	スキー実習 (授業2回相当)	
	午後 13時-16時半	スキー実習 (授業2回相当)	
	夜 19時-20時半	講義 (授業1回相当)	
3日目	午前 9時-12時	スキー実習 (授業2回相当)	
	午後 13時-16時半	スキー実習 (授業2回相当)	
	夜 19時-20時半	講義 (授業1回相当)	
4日目	午前 9時-12時	スキー実習 (授業2回相当)	
			合計 授業15回相当
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			
スキー教本	D. S. K<大学スキー研究会>編	杏林書院	
スキーの指導	日本野外教育研究会編	杏林書院	
科学的スキー上達法	清水史郎	講談社	
学生に対する評価			

独り立ちできるスキーヤーとなっているかどうかで評価する。

『その水準にある』・・・個人としてスキー理論を理解し、その技術を表現できる。

『やや上にある』・・・チームの中で積極的に会話し、トレーン（一列走行）を行っても間隔を開けずに付いていける。

『かなり上にある』・・・チームの中でリーダーシップ性を発揮し、模範的な演技を見せられる。

『卓越している』・・・総合的に理論と実践とが融合し、自由自在にスキーを乗りこなすなど指導者を感じさせられることが出来る。

また、各自が実習中にどれくらい向上したかも考慮に入れる。

授業科目名：アカデミック・イングリッシュ・フェイズ I (A) (上級)	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：デイビッド ルジチカ、兼元 美友、蓬萊 朋子、長谷部 めぐみ
科 目			担当形態：クラス分け・単独
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 ・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 大学での学修の土台となるAcademic Skills(読む・書く・聞く・話す)を使えるようになる。			
授業の概要 上述の目標を達成するために、Academic Reading及びAcademic Writingの演習を行う。 ・ Academic Reading: アカデミックレベルの語彙を修得し、且つ文法や構文の正しい理解を基に学術的な英文を読解する。 ・ Academic Writing: 文法・語法、コロケーションの演習、アカデミックレベルの語彙の確認、自然な英語表現を作成する演習を行いながら、正確且つ的確な文レベルの英語を書く。 ※話し合いやプレゼンテーション等を通して、内容を正確に聞き取ったり、効果的に意見を述べたり、議論したりする能力を身に付ける。			
授業計画 第1回： Introduction 第2回： Unit 1 Making a difference 第3回： Unit 1 Describing someone 第4回： Unit 2 Trends 第5回： Unit 2 Describing a product or service 第6回： Unit 3 Improving Lives 第7回： Unit 3 Writing a letter 第8回： Presentation 1 and Review 第9回： Unit 4 Designing the Web 第10回： Unit 4 Writing a web/app review 第11回： Unit 5 Communication Builders 第12回： Unit 5 Making a suggestion 第13回： Unit 6 Clear Communication 第14回： Unit 6 Describing a game 第15回： Presentation 2、 授業アンケート			

定期試験： Final Exam and Extensive Study Review
テキスト <i>Keynote 3 Student Book with Online Workbook + e-Book</i>
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 ・ Academic Reading/Academic Writingに関する授業期間中の習熟度を測るライティング課題 (60%) ・ 期末テスト (40%)

授業科目名：アカデミック・イングリッシュ・フェイズ I (A) (中級)	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：デイビッド ルジチカ、兼元 美友、蓬萊 朋子、長谷部 めぐみ
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>大学での学修の土台となるAcademic Skills(読む・書く・聞く・話す)を使えるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>上述の目標を達成するために、Academic Reading及びAcademic Writingの演習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Academic Reading: アカデミックレベルの語彙を修得し、且つ文法や構文の正しい理解を基に学術的な英文を読解する。 ・ Academic Writing: 文法・語法、コロケーションの演習、アカデミックレベルの語彙の確認、自然な英語表現を作成する演習を行いながら、正確且つ的確な文レベルの英語を書く。 <p>※話し合いやプレゼンテーション等を通して、内容を正確に聞き取ったり、効果的に意見を述べたり、議論したりする能力を身に付ける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： オリエンテーション / 「良い文章とは何か」について考える (Chapter 1)</p> <p>第2回： 文章を書くプロセスについて考える (Chapter 1)</p> <p>第3回： パラグラフの構造について知る (Chapter 2)</p> <p>第4回： 情報整理の仕方を考える (Chapter 2)</p> <p>第5回： 文章を校正する① (Chapter 3) 解説</p> <p>第6回： 文章を校正する② (Chapter 3) 実践</p> <p>第7回： 文章を校正する③ (Chapter 3) 演習</p> <p>第8回： エッセイの構造について知る① (Chapter 4) 解説</p> <p>第9回： エッセイの構造について知る② (Chapter 4) 実践</p> <p>第10回： エッセイの構造について知る③ (Chapter 4) 演習</p> <p>第11回： プロセスを説明するエッセイについて考える① (Chapter 5) 解説</p> <p>第12回： プロセスを説明するエッセイについて考える① (Chapter 5) 実践</p> <p>第13回： プロセスを説明するエッセイについて考える① (Chapter 5) 演習</p> <p>第14回： リーディング、ライティングの演習</p> <p>第15回： リーディング、ライティングの演習のまとめ、授業アンケート</p>			

定期試験
テキスト <i>READY TO WRITE 3, 4th Edition, Pearson,</i>
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 ・ Academic Reading/Academic Writingに関する授業期間中の習熟度を測る課題：eALPSでの小テスト+ライティング小課題（60%） ・ 期末テスト+期末ライティング課題（40%）

授業科目名：アカデミック・イングリッシュ ・フェイズ I (A) (初級)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：デイビッド ルジチカ、兼元 美友、蓬萊 朋子、長谷部 めぐみ 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 大学での学修の土台となるAcademic Skills(読む・書く・聞く・話す)を使えるようになる。			
授業の概要 上述の目標を達成するために、Academic Reading及びAcademic Writingの演習を行う。 ・ Academic Reading: アカデミックレベルの語彙を修得し、且つ文法や構文の正しい理解を基に学術的な英文を読解する。 ・ Academic Writing: 文法・語法、コロケーションの演習、アカデミックレベルの語彙の確認、自然な英語表現を作成する演習を行いながら、正確且つ的確な文レベルの英語を書く。 ※話し合いやプレゼンテーション等を通して、内容を正確に聞き取ったり、効果的に意見を述べたり、議論したりする能力を身に付ける。			
授業計画 第1回： イントロダクション 第2回： 第1課 Conclusions/Reasons 第3回： 第2課 Analysis/Boom 第4回： 第3課 Analysis/Social Phenomena 第5回： 第4課 Theory/Proof 第6回： 第5課 Controversy 第7回： 第6課 Comparison/Contrast 第8回： 中間テスト (終了後通常授業) 第9回： 第7課 Classification 第10回： 第8課 Chronological Order 第11回： 第9課 Cause & Effect 第12回： 第10課 Process 第13回： 第11課 Explanation (Theory) 第14回： 第12課 Definition 第15回： 第13課 Explanation (Theory) 授業アンケート			

定期試験
テキスト 構造で読む社会科学エッセイ (<i>Outlook on Society Skills for Better Reading II</i>) 南雲堂
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 ・ Academic Readingに関する提出課題 (30%) ・ 中間テスト (30%) ・ 期末テスト (40%)

授業科目名：アカデミック・イングリッシュ・フェイズⅡ(A)(上級)	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：1単位	担当教員名：デイビッド ルジチカ、兼元 美友、蓬菜 朋子、長谷部 めぐみ
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>大学での学修の土台となるAcademic Skills(読む・書く・聞く・話す)を使えるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>上述の目標を達成するために、Academic Reading及びAcademic Writingの演習を行う。</p> <p>・Academic Reading: アカデミックレベルの語彙を修得し、且つ文法や構文の正しい理解を基により高度な学術的な英文を読解する。</p> <p>・Academic Writing: 文法・語法、コロケーションの演習、アカデミックレベルの語彙の確認、自然な英語表現を作成する演習を行いながら、1ないし複数のパラグラフから成る説得力のある英文をつくる。 ※話し合いやプレゼンテーション等を通して、内容を正確に聞き取ったり、効果的に意見を述べたり、議論したりする能力を身に付ける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 Introduction</p> <p>第2回 Unit 7 Identity</p> <p>第3回 Unit Writing a Reflection</p> <p>第4回 Unit 8 Transportation Solutions</p> <p>第5回 Unit 8 Writing a Description</p> <p>第6回 Unit 9 New Words</p> <p>第7回 Unit 9 Writing a Definition</p> <p>第8回 Presentation 1 and Review</p> <p>第9回 Unit 10 Understanding Emotions</p> <p>第10回 Unit 10 Writing an Opinion</p> <p>第11回 Unit 11 Leaders and Thinkers</p> <p>第12回 Unit 11 Writing a business philosophy</p> <p>第13回 Unit 12 Well-being</p> <p>第14回 Unit 12 Making suggestions</p> <p>第15回 Presentation 2、授業アンケート</p>			

定期試験 Final Exam and Extensive Study Review、 Course Feedback
テキスト <i>Keynote 3 Student Book with Online Workbook + e-Book</i>
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 ・ Academic Reading/Academic Writingに関する授業期間中の習熟度を測るライティング課題 (60%) ・ 期末テスト (40%)

授業科目名：アカデミック・イングリッシュ・フェイズⅡ(A)(中級)	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：1単位	担当教員名：デイビッド ルジチカ、兼元 美友、蓬萊 朋子、長谷部 めぐみ
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>大学での学修の土台となるAcademic Skills(読む・書く・聞く・話す)を使えるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>上述の目標を達成するために、Academic Reading及びAcademic Writingの演習を行う。</p> <p>・Academic Reading: アカデミックレベルの語彙を修得し、且つ文法や構文の正しい理解を基により高度な学術的な英文を読解する。</p> <p>・Academic Writing: 文法・語法、コロケーションの演習、アカデミックレベルの語彙の確認、自然な英語表現を作成する演習を行いながら、1ないし複数のパラグラフから成る説得力のある英文をつくる。 ※話し合いやプレゼンテーション等を通して、内容を正確に聞き取ったり、効果的に意見を述べたり、議論したりする能力を身に付ける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション / 因果関係を説明するエッセイについて考える (Chapter 7)</p> <p>第2回：因果関係を説明するエッセイを分析する (Chapter 7)</p> <p>第3回：因果関係を説明する文章を書く (Chapter 7)</p> <p>第4回：物事を比較対照して論じるエッセイについて考える (Chapter 8)</p> <p>第5回：物事を比較対照して論じるエッセイを分析する (Chapter 8)</p> <p>第6回：物事を比較対照して論じる文章を書く (Chapter 8)</p> <p>第7回：問題解決を提案するエッセイについて考える (Chapter 9)</p> <p>第8回：問題解決を提案するエッセイを分析する・文章を書く (Chapter 9)</p> <p>第9回：要約について考える (Chapter 10)</p> <p>第10回：要約を書く (Chapter 10)</p> <p>第11回：自分の意見を表現する方法について考える① (Chapter 11) 解説</p> <p>第12回：自分の意見を表現する方法について考える② (Chapter 11) 実践</p> <p>第13回：自分の(進学)志望動機を説明するエッセイについて考える (Chapter 12)</p> <p>第14回：自分の(進学)志望動機を説明する文章を書く (Chapter 12)</p> <p>第15回：草稿の提出・PEER REVISION</p>			

定期試験： Final Exam and Extensive Study Review
テキスト <i>Keynote 3 Student Book with Online Workbook + e-Book</i>
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 ・ Academic Reading/Academic Writingに関する授業期間中の習熟度を測る課題：eALPSの小テスト+ライティング小課題（60%） ・ 期末テスト+期末ライティング課題（40%）

授業科目名：アカデミック・イングリッシュ ・フェイズII (A) (初級)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：デイビッド ル ジチカ、兼元 美友、蓬菜 朋子、長谷部 めぐみ
科 目			担当形態：クラス分け・単独
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 ・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 大学での学修の土台となるAcademic Skills(読む・書く・聞く・話す)を使えるようになる。			
授業の概要 上述の目標を達成するために、Academic Reading及びAcademic Writingの演習を行う。 ・Academic Reading: アカデミックレベルの語彙を修得し、且つ文法や構文の正しい理解を基により高度な学術的な英文を読解する。 ・Academic Writing: 文法・語法、コロケーションの演習、アカデミックレベルの語彙の確認、自然な英語表現を作成する演習を行いながら、1ないし複数のパラグラフから成る説得力のある英文をつくる。 ※話し合いやプレゼンテーション等を通して、内容を正確に聞き取ったり、効果的に意見を述べたり、議論したりする能力を身に付ける。			
授業計画 第1回 イントロダクション 第2回 第1課 A Paragraph as a Product 第3回 第2課 Writing a Topic Sentence 第4回 第3課 Writing Supporting Sentences 第5回 第4課 Writing a Concluding Sentence 第6回 The Process of Paragraph Writing 解説 第7回 The Process of Paragraph Writing 実践 第8回 第5課(1) Explaining Your Character 解説 第9回 第5課(2) Explaining Your Character 実践 第10回 第6課(1) Describing Your Daily Life 解説 第11回 第6課(2) Describing Your Daily Life 実践 第12回 第7課(1) Expressing an Opinion 解説 第13回 第7課(2) Expressing an Opinion 実践 第14回 第8課(1) Giving Advice and Instructions 解説 第15回 第8課(2) Giving Advice and Instructions 実践			

定期試験
テキスト 構造から学べるパラグラフ・ライティング入門[改訂版] (<i>Writing Facilitator</i> , Revised Edition) 松柏社
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 ・ Academic Reading/Academic Writingに関する提出課題 (60%) ・ 期末テスト (40%)

授業科目名：DS・DE 基礎	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 大野博道，岡野浩三，和崎 克己
			担当形態： 複数
科 目	教育職員免許法施行規則66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. データ駆動型社会においてデータサイエンスを学ぶことの意義を理解する。 2. 分析目的に応じ、適切なデータ分析手法，データ可視化手法を選択できるようになる。 3. データを収集・処理・蓄積するための技術の概要を理解できるようになる。 4. コンピュータでデータを扱うためのデータ表現の基礎を理解できるようになる。 			
<p>授業の概要</p> <p>本授業は，文部科学省が定める「数理データサイエンス・AI教育プログラム」モデルカリキュラムに準拠する。データサイエンスを活用するための基礎的な知識とスキルを修得し，社会・ビジネスの課題解決を意識した演習を行う。データサイエンスの基礎として，データ・AI活用に必要な数学やアルゴリズムの基礎を学習する。また，データエンジニアリングの基礎として，ICTの進展やビッグデータ，データ表現の基礎，さらには収集・抽出・加工に必要なプログラミング言語の基礎を習得する。</p> <p>本授業はすべてeALPSコース上で，オンライン（非同期型）で実施する。インターネット（クラウド）上で利用できる演習環境（Google Colab）を用意する。eALPSコースに掲載する資料やサンプルプログラム，および参考書などを用いて学習し，eALPSコースのすべての課題を受験する必要がある。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：データ駆動型社会とデータサイエンス 第2回：ビッグデータとデータエンジニアリング 第3回：分析設計 第4回：データ表現（演習） 第5回：数学基礎（AIで使う数学・実用編） 第6回：アルゴリズム 第7回：プログラミング基礎 第8回：プログラミング実践</p>			
<p>テキスト</p> <p>教材はすべてeALPS上コース上へ設置する</p>			

参考書・参考資料等

- ・データサイエンスの基礎 ISBN 978-4065170007
- ・統計モデルと推測 ISBN 978-4065178027
- ・データサイエンスのためのデータベース ISBN 978-4-06-519310-5
- ・Pythonで学ぶアルゴリズムとデータ構造 ISBN 978-4-06-517803-4
- ・応用基礎としてのデータサイエンス ISBN 978-4-06-530789-2

学生に対する評価

・講義内容に基づくオンライン型の課題(CBT)を課す。成績は、オンライン型の課題(CBT)の評点(合計100点)に基づいて総合的に評価する。授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」とする。

合計値が60点以上に達した場合に、単位認定する。

授業科目名： AI 基礎	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 大野博道，岡野浩三，和崎 克己
			担当形態： 複数
科 目	教育職員免許法施行規則 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標 自らの専門分野に AI を応用するための大局的な視点を与えられるようになることを到達目標とする。			
<p>授業の概要</p> <p>本授業は、文部科学省が定める「数理データサイエンス・AI 教育プログラム」モデルカリキュラムに準拠する。リテラシーレベルの人工知能に関する技術や知識を補完的および発展的に学び、それらを活用して課題解決につなげる基礎能力を身に着けるために下記に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ AI のこれまでの変遷、各段階における代表的な成果物や技術背景を理解する。 ・ 今後、AI が社会に受け入れられるために考慮すべき論点を理解する。 ・ 自らの専門分野に AI を応用する際に求められるモラルや倫理について理解する。 ・ 機械学習（教師あり学習，教師なし学習），深層学習，強化学習の基本的な概念を理解する ・ 生成 AI の基本概念や応用例，リスク，脅威などについて理解する。 ・ AI 技術（学習，認識，予測・判断，知識・言語，身体運動）を活用し，課題解決につなげることができる。 ・ 複数の AI 技術が組み合わせられた AI サービスやシステムの例を説明できる。 <p>本授業はすべて eALPS コース上で，オンライン（非同期型）で実施する。インターネット（クラウド）上で利用できる演習環境（Google Colab）を用意する。eALPS コースに掲載する資料やサンプルプログラム，および参考書などを用いて学習し，eALPS コースのすべての課題を受験する必要がある。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第 1 回：AI の歴史と応用分野，AI と社会</p> <p>第 2 回：機械学習の基礎と展望</p> <p>第 3 回：生成 AI の基礎と展望</p> <p>第 4 回：演習環境の使い方とプログラミング言語の演習（演習）</p> <p>第 5 回：サポートベクターマシンの演習（演習）</p> <p>第 6 回：深層学習の基礎と展望</p> <p>第 7 回：AI の構築と運用</p> <p>第 8 回：畳み込みニューラルネットワークの演習（演習）</p>			
<p>テキスト</p> <p>教材はすべて eALPS 上コース上へ設置する</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人工知能の基礎 ISBN 978-4274216152 ・ イラストで学ぶ 人工知能概論 改訂第 2 版 ISBN 978-4065218846 ・ Google Colaboratory で学ぶ! あたらしい人工知能技術の教科書 機械学習・深層学習・強化学習で学ぶ AI の基礎技術 ISBN 978-4798186092 			
<p>学生に対する評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義内容に基づくオンライン型の課題(CBT)を課す。成績は，オンライン型の課題(CBT)の評点（合計 100 点）に基づいて総合的に評価する。授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある」，応用問題が解ければ「やや上にある」，やや難しい応用問題が解ければ 			

「かなり上にある」、例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」とする。
合計値が 60 点以上に達した場合に、単位認定する。

授業科目名： 教育学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：荒井英治郎、橋 本萌 担当形態：クラス分け、 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業のテーマは、教育の原理を基盤として、人間形成における教育の機能と課題に関する理解を深めることである。特に、教育の概念・歴史・方法を学習することを通じて、主体的に学習する基盤を構築していくための条件を探求すると同時に、現代教育改革の特質を捉える視座・視野・視点を習得することを到達目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、教育とは何か、人間の育ちと学びにとって教育とはいかなる意味を有しているのかといった教育や学びをめぐる本質的問いに向き合うと同時に、教育や学びに関する基礎的知識を習得し、現代教育改革の理論（理念）と実際（現実）を捉える視座・視野・視点を習得していく。なお、授業のスタイルとしては、講義の他、グループワークも併用し、主体的に学習できる授業を展開するものとする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育の概念・理念・機能1（人間とは何か、教育とは何か）</p> <p>第2回：教育の概念・理念・機能2（教育の社会的機能、遺伝と発達）</p> <p>第3回：世界の教育思想・哲学の潮流（デューイ、シュタイナー、モンテッソーリ、フレイレ、ショーン、ノディングズ、ヌスバウム、ビースタ等の教育思想・哲学とその特徴）</p> <p>第4回：教育と家庭教育・社会教育・生涯学習（学校教育、家庭教育、社会教育、生涯学習）</p> <p>第5回：教育の目的（学校とは何か、教育基本法、学校教育法、学習指導要領、教育の内容、授業の構造・内容・方法）</p> <p>第6回：教育の歴史1（前近代・近代の学校と教育の歴史）</p> <p>第7回：教育の歴史2（戦時下・戦後の学校と教育の歴史）</p> <p>第8回：教育と社会1（教育と人間形成・成長、教育と「社会化」）</p> <p>第9回：教育と社会2（生涯学習社会、学校教育の意味と役割）</p> <p>第10回：現代教育改革の諸動向1（教育基本法の改正、学校教育法の改正等）</p> <p>第11回：現代教育改革の諸動向2（各種審議会の改革案の内容と特徴）</p> <p>第12回：現代教育改革の諸動向3（学習指導要領の改訂論議）</p> <p>第13回：日本の教育制度の課題1（教育改革、地方分権・規制緩和など）</p> <p>第14回：日本の教育制度の課題2（子どもの権利条約など）</p>			

第15回：今後の学校教育の展望と課題（教育の失敗と成功）**テキスト**

- ・伊藤良高・岡田愛・荒井英治郎編『教育と教職のフロンティア』晃洋書房、2021年
- ・木村元・小玉重夫・船橋一男『教育学をつかむ 改訂版』有斐閣、2019年
- ・教育フロンティア研究会編、『ポケット教育小六法』晃洋書房、2025年

参考書・参考資料等

授業時に適宜紹介をする。

学生に対する評価

授業中の発言や態度、毎授業提出してもらう「リフレクションペーパー」等の平常点（5割）、学期末レポート（5割）などから総合的に評価する。詳しくは、初回授業時に説明する。

授業科目名： 教育の思想と歴史	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：荒井英治郎、橋 本萌
			担当形態：クラス分け、 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>(a) 教育の基礎的な理念について理解する。</p> <p>(b) 西洋の教育思想について、その変遷を理解する。</p> <p>(c) 日本の教育の歴史について理解する。</p> <p>(d) 現代の教育課題を教育の原理的な思想や歴史から検討しようとする姿勢を身につける。</p>			
授業の概要			
<p>本講義では、教育の基礎的理念、思想、歴史について学ぶ。西洋の教育思想史を理解することで、子ども観の変遷、教授理論の開発、教育の制度構築にまで通底する教育の理念を学習する。加えて日本の教育の歴史を学ぶことで、学校教育・家庭・社会における教育の営みを捉えていく。最後に、現代社会の実相から教育思想・歴史に立ち返り、今日の教育について学習を深める。</p>			
授業計画			
第1回：教育とは何か（オリエンテーション）			
第2回：西洋教育思想の源流			
第3回：近代教育思想			
第4回：近代の教授理論			
第5回：新教育の子ども観			
第6回：新教育以降の教育思想			
第7回：日本の教育の歴史①家族と社会による教育			
第8回：日本の教育の歴史②近代教育制度の成立と展開			
第9回：日本の教育の歴史③日本の戦後教育史			
第10回：教科書の歴史			
第11回：学力とは何か			
第12回：公教育を再考する			
第13回：現代社会と子ども・家庭・社会			
第14回：現代日本の教育課題			
第15回：まとめ			
テキスト			

今井康雄編『教育思想史』有斐閣アルマ2009年、(2、200円＋税)

参考書・参考資料等

文部科学省『学制百五十年史』2022年

学生に対する評価

毎回のリアクションペーパーの提出(30点)、事前学習小課題(10点)、ディスカッションにおける積極的な参加(10点)、まとめ試験(50点)。

授業科目名： 教職論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：小山茂喜、荒井 英治郎
			担当形態：クラス分け、 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応 を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>(a) 教職の意義や教員の役割・職務内容等に関する知識を身につける。</p> <p>(b) 教職に必要とされる資質能力について理解し、自らの適性について判断し、専門性を高めるために自ら学び続ける姿勢を育む。</p>			
授業の概要			
<p>本講義では、教職に対する本質的な理解のために教職の意義や歴史を学んだ上で、教育公務員としての身分と服務、職務内容に関する知識を身につける。加えて教職で必要とされる資質能力について考え、自らの適性について判断し、今日求められている教員の役割を理解して、専門職として学び続ける姿勢を育むことを目的とする。</p>			
授業計画			
<p>第1回：教職とは？～教員を目指す～</p> <p>第2回：教育の目的とは</p> <p>第3回：日本における教員養成の歴史</p> <p>第4回：発達課題に基づく子ども理解</p> <p>第5回：教員の身分と服務</p> <p>第6回：学級担任の仕事と校務分掌</p> <p>第7回：特別支援教育</p> <p>第8回：生徒指導、進路指導、保護者対応</p> <p>第9回：教員の職場環境（チーム学校運営）</p> <p>第10回：現代の教育課題① いじめ</p> <p>第11回：現代の教育課題② 不登校</p> <p>第12回：教員の養成と採用</p> <p>第13回：教員の資質向上と研修</p> <p>第14回：専門職としての力量形成</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p>			
テキスト			

河野桃子編著『はじめての教職論』（学事出版2021）

参考書・参考資料等

文部科学省編『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』（東洋館出版社2018年）

『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』（東山書房2018年）

『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編』（東山書房2019年）

学生に対する評価

試験（50%）、毎回のリアクションペーパー、もしくは小課題（30%）、グループ活動等、授業内の取り組み（20%）により評価を行う。

授業科目名： 教育の制度と経営	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：荒井英治郎 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>本授業のテーマは、教育に関する制度的・経営的事項に着目しながら、教育制度改革の諸動向と論争点・課題を理解することである。特に、教育に関する教育法規の知識として、日本の教育制度の法的構造や制度運用上の課題の把握、現代教育改革の諸動向の理解を通じて、教育制度と教育実践との関係を具体的に理解することを到達目標とする。</p>			
授業の概要			
<p>現代日本の教育改革の特徴は、戦後形成された教育制度のみならず、その制度を支える制度原理それ自体の再編を企図するものであるが、いかなる政策理念に基づいて、いかなる政策対象に、いかなる政策手法を講じていくか、多様な選択肢を検討していくことが求められている。そこで、本授業では、個々の法制度・法文の理解に留まることなく、現代日本の教育課題を踏まえた制度的・経営的事項の構造的課題の分析を行い、今後の制度構想や教育政策のあり方を考察していく。なお、授業のスタイルとしては、講義の他、グループワークも併用し、主体的に学習できる授業を展開するものとする。</p>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション、社会環境の変化と教育・子育てと福祉（人口減少社会の到来、学校・家庭・地域の役割分担、子どもが抱える課題の複雑化・困難化など）</p> <p>第2回：現代日本の教育課題と教育政策過程（学力・学習意欲・自己肯定感、教育政策の決定過程、教育政策の諸動向など）</p> <p>第3回：公教育の原理・理念と構造（産業革命と近代国民国家の誕生、近代公教育の原則：義務性、無償性、中立性、就学義務と就学援助など）</p> <p>第4回：公教育制度と教育基本法の改正（教育基本法改正、教育関係法規の改正動向など）</p> <p>第5回：中央教育行政制度の改革（政治主導型教育改革、文部科学省・中央教育審議会、義務教育の構造改革、義務教育費国庫負担制度、県費負担教職員制度、教育振興基本計画、中央・地方関係の変化など）</p> <p>第6回：地方教育行政制度の改革（教育委員会制度の改革動向、総合教育会議と教育大綱、設置者管理・負担主義、学校管理規則、指導主事制度と学校支援など）</p> <p>第7回：学校経営・学級経営と学校評価制度（学校組織マネジメント、学級編制と教職員定数、校務分掌と主任制度・「新しい職」、職員会議の法的位置付け、自己評価・学校関係者評価・第三者評価など）</p> <p>第8回：教職員制度の改革（教職の特殊性、教員の資質・能力の向上、免許更新制度、養成・採用・研修の制度、教職員の研修体系、教職大学院制度など）</p> <p>第9回：学校関係者の働き方改革（教員の多忙化と業務改善、服務義務・処分、人事評価制度、メンタルヘルス、「チーム学校」論、学校事務職員・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・部活動指導員など）</p> <p>第10回：学校・家庭・地域の連携協力（開かれた学校づくり、家庭教育支援チーム、学校評議員、学校運営協議会、放課後子供教室、学校支援ボランティア、学校支援地域本部、地域学校協働本部、地域未来塾など）</p> <p>第11回：教育内容・教科書をめぐる制度改革（教育課程と学習指導要領の改訂、教科書と補助教材、教科書検定・採択制度など）</p> <p>第12回：学校健康教育の現状と課題（学校安全：災害安全・交通安全・生活安全、学校保健計画、健康診断、感染症予防、学校安全計画と学校事故、災害共済給付、学校給食とアレルギー対応など）</p>			

第13回：子どもをめぐる法的対応（いじめ対策、不登校支援、児童虐待防止、少年法制、懲戒と体罰、出席停止、指導要録など）

第14回：多様な学びとセーフティ・ネット（フリー・スクール、夜間学級、性の多様性・外国人児童生徒への対応、子どもの貧困対策など）

第15回：諸外国の教育制度改革の動向と制度構想（教育の自由化・市場化・民営化、教育改革の国際比較）

テキスト

・伊藤良高・大津尚志・永野典詞・荒井英治郎編『新版 教育と法のフロンティア』晃洋書房、2020年、1400円

・教育フロンティア研究会編『ポケット教育小六法』晃洋書房、2025年、1900円

参考書・参考資料等

授業時に適宜紹介をする。

学生に対する評価

授業中の発言や態度、毎授業提出してもらう「リフレクションペーパー」等の平常点（5割）、学期末レポート（5割）などから総合的に評価する。詳しくは、初回授業時に説明する。

授業科目名： 発達と教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：横嶋 敬行 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>(1) 人間の各発達段階に関する代表的理論、運動・言語・認知・社会性の発達に関する具体的な内容、発達における個人と環境の相互作用、発達の概念や教育における発達の意義を理解する。</p> <p>(2) 主体的な学習活動を支えるための学習理論、記憶のメカニズム、動機づけ、集団づくり、学習評価、発達障害に関する代表的理論を、各発達段階の特徴を踏まえて理解する。</p>			
授業の概要			
<p>発達心理学に関する内容では、乳幼児期から老年期までの各発達段階の理論及び具体的な特徴について学び、発達に関する基礎的知識を習得する。教育心理学に関する内容では、学習理論、記憶のメカニズム、動機づけ、集団づくり、学習評価、発達障害に関する知識を、教育実践への応用の観点を含めて学び、子どもたちの主体的な学習活動を支えるための資質・能力を身につける。</p>			
授業計画			
<p>第1回：学校における教育心理学と発達心理学の役割</p> <p>第2回：発達の理論</p> <p>第3回：胎児期・乳幼児期の発達</p> <p>第4回：幼児期の発達</p> <p>第5回：児童期の発達</p> <p>第6回：青年期の発達</p> <p>第7回：成人期以降の発達</p> <p>第8回：学習の理論</p> <p>第9回：学習と記憶</p> <p>第10回：動機づけ</p> <p>第11回：学力と知能</p> <p>第12回：教育評価</p> <p>第13回：学級集団づくり</p> <p>第14回：障害の理解①（障害に関する基礎知識）</p> <p>第15回：障害の理解②（障害観の変容、合理的配慮）</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
テキスト			

指定しない。講義中に資料を配布する。

参考書・参考資料等

教職ベーシック 発達・学習の心理学（第2版）（柏崎秀子 編著、北樹出版）

学生に対する評価

学期末レポート（50%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（50%）

授業科目名： 発達心理学概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：横嶋 敬行 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>胎児期から老年期に至るまで、個人が生まれてから死ぬまでの生涯発達について、身体・運動、知能・認知、感情・人格、言語、対人関係・社会性のそれぞれの発達について、基本的知識を習得するとともに、教育に活用する観点を身につける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>人間の発達には生涯に渡り続くものであり、教師は児童生徒の過去・未来の発達に対して見通しを持ちながら教育活動を行うことが必要である。そこで、身体・運動、知能・認知、感情・人格、言語、対人関係・社会性といった各領域の基本的な発達について学ぶとともに、グループワークやディスカッションを通して教育に活用する観点を身につける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：発達心理学とは 第2回：生涯発達（胎児期から児童期まで） 第3回：生涯発達（青年期から老年期まで） 第4回：身体と運動の発達 第5回：知的能力と認知の発達 第6回：感情と人格の発達 第7回：ことばの発達 第8回：対人関係・社会性の発達</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
<p>テキスト</p> <p>指定しない。講義中に資料を配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>よくわかる発達心理学（渡辺弥生 監修、ナツメ社）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業内で課す小課題、グループワーク、レポート等を総合的に評価する（100%）</p>			

授業科目名： 特別支援教育の理論と 実践	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 庄司 和史
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>特別な支援を必要とする通常の学級に在籍する発達障害等のある子供の特性や発達についての基礎的知識を身に付ける。また、障害等によって起こる学習上または生活上の困難の状況と、それらに対する支援の方法を理解する。特別支援教育のシステムについて、特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制、学校外の関係機関、各家庭との連携、個別の教育支援計画等を含む教育課程についての基本的事柄を理解する。</p>			
授業の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回のテーマに沿って行う予習をもとに学習を進め、毎回、ワークシートまたは小レポートを作成し提出する。 ・適宜、グループ・ディスカッション等の活動を行い、考えを交流する。 ・学習したことをテーマに沿って最終レポートにまとめる 			
授業計画			
<p>第1回：ガイダンス（特別支援教育を学ぶ意義、特別支援教育の理念、インクルーシブ教育）</p> <p>第2回：特別の支援が必要な子供とは（障害のある子供と障害はないが特別な教育的ニーズのある子供、子供のめぐる多様な問題と特別支援教育の役割）</p> <p>第3回：特別の支援が必要な子供の心身の発達、心理的特性及び学習過程</p> <p>第4回：障害のある子供の学習上または生活上の困難</p> <p>第5回：特別支援教育のしくみ①（制度、特別支援教育コーディネーターの役割、校内支援体制）</p> <p>第6回：特別支援教育のしくみ②（教育課程、自立活動、個別の教育支援計画、通級による指導）</p> <p>第7回：特別の教育的ニーズの把握と支援の具体的方法</p> <p>第8回：全体のまとめ・特別支援教育の課題（合理的配慮の提供、母国語や貧困の問題等への組織的対応等）</p>			
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			
<ul style="list-style-type: none"> ・小山茂喜編『よくわかる教職シリーズ 教育実習安心ハンドブック』学事出版, 2018年 ・庄司和史『よく分かる教職シリーズ 介護等体験安心ハンドブック』学事出版, 2018年 			

- ・ 本田秀夫『発達障害 生きづらさを抱える少数派の「種族」たち』SB新書, 2018年
- ・ 中瀬浩一・井上智義『特別の教育的ニーズがある子どもの理解』樹村房, 2024年

学生に対する評価

- ・ 毎回の授業の参加状況と小レポート50%、最終課題（レポート）50%で評価する。

授業科目名：教育課程 の編成法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：小山茂喜 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを 含む)		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>①学習指導要領を基準に各学校で編成される教育課程の役割・機能・意義を理解する。</p> <p>②教育課程編成の基本原理や学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。</p> <p>③教育課程は各学校の実情に合わせて編成されていることを理解するとともに、教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。</p>			
授業の概要			
はじめに、学校における教育内容の内実をなす教育課程の意義や教育課程上の諸課題と学習指導要領の関係について理解を目指す。事例研究を通して、特色ある教育課程の編成の在り方について考察する。さらに、活力ある教育課程を編成するためのカリキュラムマネジメントの考え方や評価の観点・方法（評価規準）について学び、シラバスの作成の技能を身につける。			
授業計画			
<p>第1回：教育課程についての基本的な考え方を探る</p> <p>第2回：日本における教育課程の考え方の変遷を概観する</p> <p>第3回：現代の教育課程編成上の課題と学習指導要領の改訂との関係を探究する</p> <p>第4回：事例研究にみる特色ある教育課程の編成を学ぶ</p> <p>第5回：カリキュラムマネジメントとは</p> <p>第6回：評価の観点と評価方法について</p> <p>第7回：中学校学習指導要領にみる教科ごとのカリキュラムを分析する。</p> <p>第8回：小・中・高の内容の系統性について教科ごとのカリキュラムを分析する。</p>			
テキスト			
「中学校学習指導要領(平成29年告示)」「高等学校学習指導要領(平成30年告示)」「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編」「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総則編」(文部科学省)			
参考書・参考資料等			
「カリキュラム・マネジメントの手引き活用ガイド」(文部科学省)、「学校における教育課程編成の実証的研究報告書3「現代的な諸課題」を扱う教科等横断的な単元の開発と実践」(国立教育政策研究所)			
学生に対する評価			

授業の中で課すレポート等(4割)、各自の専攻に即したシラバス作成レポート(6割)で総合的に評価する。

授業科目名： 総合的な学習の時間 の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：藤井善章、小山 茂喜、荒井英治郎、田村徳至 担当形態：クラス分け、 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習（探究）の時間の指導法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>総合的な学習の時間の意義を理解し、生徒の探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を指導するための基礎的な知識・技能を習得する。教育現場での効果的な指導法を探究する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学習指導要領における総合的な学習の時間の意義や歴史の変遷を学ぶことを通して、教育課程において果たす役割や、教科を越えて必要となる資質・能力とは何かを探る。</p> <p>学習指導要領における総合的な学習の時間の目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点を理解したうえで、指導計画の作成や教材開発を行い、主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習の時間の単元計画の作成を行う。</p> <p>探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立てや、学習状況に関する評価の方法を探る。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割について、教科を越えて必要となる資質・能力の視点から理解する。</p> <p>第2回 学習指導要領における総合的な学習の時間の目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点を理解する。</p> <p>第3回 総合的な学習の時間の設計・実践・評価のプロセスと学習原理</p> <p>第4回 総合的な学習の時間のテーマ設定と各教科・他領域との関連の展開や地域との連携</p> <p>第5回 ICTを活用し、探究的な学習の過程及びそれを実現するための教材作成のあり方</p> <p>第6回 総合的な学習の時間の単元構成と指導計画作成</p> <p>第7回 模擬授業</p> <p>第8回 模擬授業の相互評価と今後の中等教育における総合的な学習の展望</p>			
<p>テキスト</p> <p>中学校学習指導要領、中学校学習指導要領解説 総則編、中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編、高等学校学習指導要領、高等学校学習指導要領解説総則編、高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編</p>			

参考書・参考資料等

授業の中で適宜紹介する。

学生に対する評価

毎回課すその時間の学習内容に即したレポート（65%）最終段階での、自分が最も学習効果上がるであろうと考える学習理論・方法論に基づいた学習指導計画の作成(30%)、授業の取り組み（5%）を総合的に判断する。

授業科目名： 特別活動の理論と実践	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：藤井善章、田村徳至 担当形態：クラス分け 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学校教育全体における特別活動の意義を理解して表現するとともに、特別活動の3内容（学級活動・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事）について、多面的にあり方を検討する。また、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を表現できるようにする。さらに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付け表現する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学習指導要領から見た特別活動の意義と内容を読み解き、理解する。</p> <p>具体的な実践例を基に、特別活動の3つの内容（学級活動・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事）の特徴と意義を考察する。</p> <p>特別活動場面で実施可能なワークショップを体験し、生徒理解の視点から効果的な学級・学年経営のあり方を探究する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解する。</p> <p>第2回：教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連を理解する。</p> <p>第3回：学級活動・ホームルーム活動の特質について理解する。</p> <p>第4回：生徒会活動、学校行事の特質について理解する。</p> <p>第5回：教育課程全体で取り組む特別活動の指導のあり方を理解する。</p> <p>第6回：合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団行動の意義や指導を考察する。</p> <p>第7回：学校と家庭・地域社会や関係機関との連携について考察する。</p> <p>第8回：教科や道徳、総合的な学習との関連や潜在的なカリキュラムからの見直しについて考察し、取り組んだことの評価と改善活動の重要性を理解する。</p>			
<p>テキスト</p> <p>中学校学習指導要領、中学校学習指導要領解説 総則編、中学校学習指導要領解説 特別活動編、高等学校学習指導要領、高等学校学習指導要領解説総則編、高等学校学習指導要領解説</p>			

特別活動編

参考書・参考資料等

必要に応じて授業において適宜指示をします。

学生に対する評価

毎回課すレポート（65％）期末の課題レポート（30％）授業への取り組み（5％）を総合的に判断する。

授業科目名： 教育方法論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：藤井善章 田村 徳至、小山 茂喜
			担当形態：クラス分け 単 独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業では、どのような内容を、どのように子どもたちが学ぶことが、もっとも教育効果を上 げることができるについて学ぶ。</p> <p>伝統的な学習理論の特徴と歴史的変遷を学ぶことを通して、学力観や授業観等の変遷につい て学ぶ。</p> <p>授業実践記録等を分析することで、教育活動における経験法則を学ぶとともに、教育現場が 抱えている方法学的な課題解決の方策を探る。</p> <p>さらに、教育方法という教師の活動という視点から学習と評価との関係を追究しながら、情 報化教育の視点も含めて「わかる授業」を構想する視座や基礎を習得する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学習指導要領の変遷を整理した後、すぐれた実践者の授業から教育内容と教育方法を学び、 I C Tの活用を含めた模擬的な授業を開発する演習を通して、わかる授業の授業設計と実践に 向けての基礎・基本的知識と技能を習得する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育方法学をめぐる諸問題について学ぶ（「学力とは何か」）。</p> <p>第2回：伝統的な学習理論について学ぶ。</p> <p>第3回：我が国における学習理論の展開について学ぶ。</p> <p>第4回：教材研究と教材開発について、授業実践例から基本的要素を学ぶ。</p> <p>第5回：子ども理解と授業設計について、授業実践例から学ぶ。</p> <p>第6回：授業参観と授業分析の基本を学ぶ。</p> <p>第7回：教材開発の手法について、具体的な作業を通して学ぶ。（I C T活用を含む）</p> <p>第8回：各自の専攻科目に対応した学習計画を作成し、発表する。（I C T活用を含む・グル ープ学習）</p>			
<p>テキスト</p> <p>小山茂喜編、「新版教育実習安心ハンドブック」、学事出版、2018年、1980円 自分の専門教科に関わる「中学校学習指導要領 解説」「高等学校の学習指導要領 解説」</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>適宜、プリントや資料を配付するが、教職教育部のWEBからも必要に応じてダウンロードす る。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>毎時間課すレポートの評価の基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容を正確に理解しているか（5点満点）、文量が適切か（5点） <p>期末レポート課題</p> <p>「教育方法に係わる事例に対し、自分の考えを具体的に記述する」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論題に正対しており、かつ具体的な教育方法が記載されているか（70点） ・文量、質ともに十分であるか（規定を守っているか）（10点） <p>合計150点を100点満点に換算して評価する。</p>			

授業科目名：教育方法 特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：藤井善章、 田村 徳至、小山茂喜 担当形態： クラス分け 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①すぐれた授業実践の分析を通して、さまざまな教育方法の内容について理解すると同時に、各自の課題意識に即して、学習指導案を作成することができる。</p> <p>②多様な学習理論や学力観や授業観等を活用して、教材開発から授業設計・模擬授業を行い、授業実践力を培う。授業では、どのような内容を、どのように子どもたちが学ぶことが、もつとも教育効果を上げることができるについて具体的な実践例を通して学ぶ。</p> <p>③教材開発や情報機器の活用等の演習を通して、「わかる授業」を構想する視座や基礎を習得する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教育実践の達人と呼ばれる先生方の教育実践記録の分析を通して方法的な経験法則を学び、そこで得られたノウハウを教材開発の演習に活用することを通して、授業設計と実践に向けての基礎・基本的知識と技能を習得する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育方法学をめぐる諸問題について学ぶ(「学力とは何か」)。</p> <p>第2回：伝統的な学習理論について学ぶ。</p> <p>第3回：我が国における学習理論の展開について学ぶ。</p> <p>第4回：教材研究と教材開発について、授業実践例から基本的要素を学ぶ。</p> <p>第5回：子ども理解と授業設計について、授業実践例から学ぶ。</p> <p>第6回：授業参観と授業分析の基本を学ぶ。</p> <p>第7回：教材開発の手法について、具体手的な作業を通して学ぶ。(ICT活用を含む)</p> <p>第8回：各自の専攻科目に対応した学習計画を作成し、発表する。(グループ学習)</p>			
<p>テキスト</p> <p>「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 (総則)(国語)(社会)(数学)(理科)(英語)」(文部科学省)</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「時代を拓いた教師たち」(田中耕治編、日本標準)、「時代を拓いた教師たちⅡ」(田中耕治編、日本標準)</p>			

学生に対する評価

毎時間課すその時間の学習内容に即したレポート（5割）・グループ発表等授業態度（3割）で評価する。最終段階での、自分が最も学習効果が上がるであろうと考える学習理論・方法論に基づいた学習指導計画の作成（2割）

授業科目名： 学校教育と情報	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：藤井善章 小山 茂喜 担当形態：クラス分け 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校現場におけるICT(情報通信技術)活用の意義や理論について理解できるようになる。 2. ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について理解できるようになる。 3. 情報活用能力を育成する意義および育成方法を身につける。 			
授業の概要			
<p>学校現場におけるICTの活用について、その歴史的経緯、現状、今後の方向性を理解する。授業における生徒および教員によるICT活用の他、授業の準備、学習評価に関する活用、校務における活用や教育データの活用を取り上げる。また、情報社会を生きていくための資質・能力である情報活用能力について、その構成要素および具体的な指導法、教育課程上の位置づけについて解説する。また、学生自身がICTを活用し、体験的に学修する機会を設ける。</p>			
授業計画			
<p>第1回：現代社会におけるICTの役割</p> <p>第2回：教育における先端技術とデジタルコンテンツ</p> <p>第3回：教職課程を通して身に付けるICT活用指導力</p> <p>第4回：対話的な学びを深めるICTの活用</p> <p>第5回：個別最適な学びを支えるICTの活用</p> <p>第6回：遠隔授業・遠隔学習と学びの保障</p> <p>第7回：特別支援教育におけるICT活用</p> <p>第8回：校務の情報化と教育データの活用について</p> <p>第9回：生徒によるICT活用について</p> <p>第10回：プログラミング教育で育てる資質・能力について</p> <p>第11回：学校教育における情報モラルと情報セキュリティについて</p> <p>第12回：デジタルコンテンツの編成と作成（企画）</p> <p>第13回：デジタルコンテンツの編成と作成（作成）</p> <p>第14回：情報活用能力を体系的に育むために</p> <p>第15回：学校とテクノロジーのこれから</p>			
テキスト			

<p>「ICT活用の理論と実践：DX時代の教師をめざして」稲垣忠・佐藤和紀 他、北大路書房、2021</p> <p>中学校学習指導要領、中学校学習指導要領解説総則編、自分の専門教科に関わる中学校学習指導要領 解説、高等学校学習指導要領、高等学校学習指導要領解説総則編、自分の専門教科に関わる高等学校学習指導要領解説</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業内で随時紹介する。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>各回のレポート（60％）と課題レポート（40％）を総合的に判断して評価する。</p>

授業科目名： 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：小山 茂喜 藤井 善章 担当形態：クラス分け 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校現場におけるICT活用の意義や理論について理解できるようになる。 2. ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について理解できるようになる。 3. 情報活用能力を育成する意義および育成方法を身につける。 			
<p>授業の概要</p> <p>情報通信技術を活用した教育に関して、講義や演習を通して、以下の内容を修得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育現場におけるICT（情報通信技術）活用の歴史的経緯や現状と今後の方向性 2. ICT活用に関わる授業準備や授業実践、学習評価の在り方と校務でのICT活用 3. 情報活用能力の構成要素および育成にかかわる指導法や教育課程上の位置づけ 			
<p>授業計画</p> <p>第1回：現代社会におけるICTの役割と導入</p> <p>第2回：教師のICT活用指導力と先端技術とデジタルコンテンツの活用</p> <p>第3回：生徒の情報活用能力の育成とICT活用</p> <p>第4回：教員の校務・業務の情報化</p> <p>第5回：個別最適な学びと対話的な学びを深めるICTの活用</p> <p>第6回：ICTを活用した授業設計、教材開発</p> <p>第7回：放送教育の活用</p> <p>第8回：情報モラルと情報セキュリティー</p>			
<p>テキスト</p> <p>「ICT活用の理論と実践：DX時代の教師をめざして」稲垣忠・佐藤和紀 他、北大路書房、2021、中学校学習指導要領(平成29年度告示)、中学校学習指導要領(平成29年度告示)領解説総則編、中学校学習指導要領(平成29年度告示)解説(国語編、社会編、数学編、理科編、外国語編)、高等学校学習指導要領(平成30年度告示)、高等学校学習指導要領(平成30年度告示)解説総則編、高等学校学習指導要領(平成29年度告示)解説(国語編、地理歴史編、公民編、数学編)</p>			

理数編、理科編 理数編・外国語編 英語編)

参考書・参考資料等

学生に対する評価

・授業のねらいの到達度を測る毎回のeALPS等LMS上の課題（30%）、模擬授業の実施・相互評価（40%）、確認テスト（30%）を総合的に評価する。

※ 各授業でのディスカッションへの参加状況や受講態度などに応じて成績評価を加味する。

授業科目名： 生徒指導の理論と実践	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：荒井英治郎、田村徳至、横嶋敬行
			担当形態：クラス分け、 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の意義と役割について、各種資料（中央教育審議会等の各種審議会や学習指導要領、国立教育政策研究所など）を基に説明することができる。 ・学校における生徒指導の現状分析を通して、生徒理解の必要性と指導のあり方を説明することができる。 ・教育現場で抱える生徒指導上の諸課題の対応方法について、説明することができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>令和4年12月に改訂発行された「生徒指導提要」を基にして、現状の生徒指導の課題と今後の在り方を講義と演習によって把握する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回:生徒指導の基礎(生徒指導の意義、生徒指導の構造、生徒指導の方法、生徒指導の取り組み情の留意点 他)</p> <p>第2回:生徒指導と教育課程(教科指導・道徳、総合(探究)的な学習の時間、特別活動の関係)</p> <p>第3回:学校における生徒指導体制①(教育相談の体制、チーム学校、生徒指導に関わる法制度)</p> <p>第4回:学校における生徒指導体制②(危機管理体制、家庭・関係機関との連携のあり方)</p> <p>第5回:いじめ①(いじめ防止対策推進法、いじめ防止等の対策のための校内組織と計画)</p> <p>第6回:いじめ②(いじめに関する生徒指導のあり方、関係機関との連携)</p> <p>*11月中旬に中間レポートを課す</p> <p>第7回:暴力行為(暴力行為に対する対応、校内組織と体制づくり、関係機関との連携のあり方)</p> <p>第8回:少年非行(少年法と児童福祉法、非行の対応方法、関係機関との連携体制、喫煙・飲酒・薬物乱用)</p> <p>第9回:児童虐待(虐待に関わる法律、学校の支援体制、予防的生徒指導のあり方、関係機関との連携)</p> <p>第10回:自殺、中途退学(自殺対策基本法、自殺予防のための生徒指導、中途退学に対する対応、予防的指導のあり方)</p> <p>第11回:不登校(不登校に関わる関連法規・基本方針、学校による支援体制、関係機関との連</p>			

<p>携方法)</p> <p>第12回:性に関する課題(性犯罪、性暴力の対策、早期発見と対応、支援体制、性的マイノリティに関する課題と対応)</p> <p>第13回:特別に支援が必要な生徒に対する生徒指導(発達障害、精神障害、健康課題等)</p> <p>第14回:インターネット・携帯電話に関わる課題(インターネット問題への取り組み)</p> <p>第15回:ケーススタディ(いじめに関わる対策、学級担任としての具体的な対応方法暴力行為、いじめの現状・理解・対応)</p> <p>定期試験:テストは実施しない。生徒指導に関わるレポートを課す。</p>
<p>テキスト</p> <p>生徒指導提要 令和4年12月発行 文部科学省</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>特に指定しない。授業時に紹介する。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>・毎時間課すミニレポート(40)、レポート課題(60) 30×2回</p>

授業科目名：教育相談 の理論と実践	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：横嶋 敬行 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理 論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>(1) 学校における教育相談の意義と課題、教育相談に関わる心理学的な理論・概念を理解する。</p> <p>(2) 児童生徒の不適応や問題行動に気づき把握するために必要となるカウンセリングの基礎的な姿勢・技法（受容・傾聴・共感的理解等）を理解し、カウンセリングマインドの重要性を理解する。</p> <p>(3) いじめ・不登校・虐待等の課題に対して教育相談を進めるための、教育相談計画の作成、学内の体制整備、医療・福祉・心理等の専門機関との連携に関する意義と必要性を理解する。</p>			
授業の概要			
<p>児童生徒の発達状況に即して、個々の心理的特質や教育的課題（不適応や問題行動等）を適切に把握し、支援するために必要な知識（カウンセリングの意義、理論、技法に関する基礎的知識を含む）について学ぶ。また、いじめ、不登校、虐待等の特定の課題に対する教育相談の進め方（支援計画、学内の体制整備、専門機関との連携）について習得する。</p>			
授業計画			
<p>第1回：教育相談の意義と内容</p> <p>第2回：教育相談の定義と歴史的変遷</p> <p>第3回：児童生徒の問題の把握（ストレスのメカニズム）</p> <p>第4回：児童生徒の問題（精神医学的理解）</p> <p>第5回：児童生徒の問題（心理学的理解）</p> <p>第6回：カウンセリングの理論と技法（来談者中心療法）</p> <p>第7回：カウンセリングの理論と技法（精神力動論）</p> <p>第8回：カウンセリングの理論と技法（認知行動論）</p> <p>第9回：児童生徒の問題の理解と対応（不登校）</p> <p>第10回：児童生徒の問題の理解と対応（いじめ）</p> <p>第11回：児童生徒の問題の理解と対応（虐待）</p> <p>第12回：学級集団づくりにおける教育相談の役割</p> <p>第13回：発達支持的・課題予防的教育相談</p> <p>第14回：保護者に対する支援</p> <p>第15回：教師のメンタルヘルス</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
テキスト			

指定しない。講義中に資料を配布する。

参考書・参考資料等

教育相談の理論と実践（内田利広 編著、ふくろう出版）

学生に対する評価

学期末レポート（50%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（50%）

授業科目名： 教育相談特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：横嶋 敬行 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>(1) 教育相談を進める際に必要になる基礎的な知識及び技術（受容・傾聴・共感的理解等やカウンセリングマインド等）を習得するとともに、教師自身のメンタルヘルスキアの必要性和方法を身につける。</p> <p>(2) 困難課題対応的教育相談（いじめ・不登校等の課題）の進め方に関する実践力を身につける。</p> <p>(3) 発達支持的・課題予防的教育相談の進め方に関する実践力を身につける。</p>			
授業の概要			
<p>子どもたちが抱える諸課題に対して適切な教育相談を進めるためには、教師自身のメンタルヘルスキアが不可欠である。自身に適したストレスマネジメント方略の考案及び実践を通して、教育相談の基礎的な知識及び技術を実践的に学ぶ。子ども用の心理教育等の発達支持的・課題予防的教育相談（心理教育等の活用）や困難課題対応的教育相談（いじめ・不登校等の課題）に関するグループワークやディスカッションを通して具体的な実践力を身につける。</p>			
授業計画			
第1回：教育相談とは（教育相談の意義、内容、歴史）			
第2回：傾聴とアサーショントレーニングの理論と実践			
第3回：ストレスのメカニズム			
第4回：教師の心が折れるとき（事例検討）			
第5回：ストレスマネジメントの理論			
第6回：ストレスマネジメントの実践			
第7回：ストレスマネジメントの実践発表			
第8回：心理教育の理論と実践（自己肯定感の育成）			
第9回：心理教育の理論と実践（感情知性の育成）			
第10回：心理教育の理論と実践（実行機能の育成）			
第11回：心理療法の教育現場への応用（応用行動療法）			
第12回：心理療法の教育現場への応用（認知行動療法）			
第13回：心理教育の教育現場への応用（マインドフルネス）			
第14回：児童生徒の問題の予防と対応（いじめ・不登校）			
第15回：児童生徒の問題の予防と対応（発達障害・虐待）			
定期試験は実施しない。			

テキスト

指定しない。講義中に資料を配布する。

参考書・参考資料等

「教育相談の理論と実践」（内田利広編著、ふくろう出版）

学生に対する評価

授業内で課す小課題、グループワーク、レポート等を総合的に評価する（100%）

授業科目名： 進路指導・キャリア教育の理論と実践	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：小山茂喜、荒井英治郎、田村徳至
			担当形態：クラス分け、 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校から社会への移行をめぐる様々な課題や子どもたちの生活や意識の変容から、キャリア教育が求められている歴史的・社会的背景について整理するとともに、キャリア教育の基礎理論、キャリアカウンセリングの理論と方法、自己評価のあり方などを学習することを通して進路指導とキャリア教育を実践できる力を身につける。 			
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップやカウンセリング等の演習において、キャリア教育に必要な諸能力について理解を深め、キャリア教育の実践に必要な基本的な考え方や、キャリアカウンセリング等の技法について学習する。 ・外部講師をお招きし、現在の大学生全般の就職状況などの情報提供をしていただく予定である（変更の可能性あり）。 			
<p>授業計画</p> <p>第1回：キャリア教育の理念と性格(キャリア教育とは何か、教育課程におけるキャリア教育の位置付け、キャリア教育と進路指導、キャリア教育と職業教育)</p> <p>第2回：キャリア教育の導入過程(職業指導から進路指導へ、進路指導からキャリア教育へ)</p> <p>第3回：キャリアの基礎理論(職業指導の成立、特性・因子論的アプローチ、職業的発達理論からキャリア発達理論へ、意思決定理論)</p> <p>第4回：キャリア理論の新動向(スーパー以降のキャリア発達理論、社会的認知理論、ポストモダン・アプローチ)</p> <p>第5回：キャリア教育の位置づけ(学校教育におけるキャリア教育の位置づけ、小学校・中学校・高等学校・専門学校・大学におけるキャリア教育)</p> <p>第6回：キャリアガイダンスの理論と実践</p> <p>第7回：キャリア形成とポートフォリオ</p> <p>第8回：キャリアカウンセリングの理論と方法</p> <p>定期試験：実施しない（期末レポートを課す）</p>			
<p>テキスト</p> <p>随時、講義中に紹介する。授業時にレジュメを配布する。</p>			

参考書・参考資料等

随時、講義中に紹介する。

- ・キャリア教育の手引き（文部科学省） 購入する必要はない。
小学校版・中学校版・高等学校版→HPからダウンロード可能

学生に対する評価

- ・毎時間課すミニレポート（40）、レポート課題（60）

シラバス：教職実践演習		単位数：2単位		担当教員名 教科担当教員： 錦織広昌・大野博道・番場教子・西新幹彦・畑秀明・豊田政史・吉田尚史・梅干野成央 教職担当教員：藤井善章・田村徳至・荒井英治郎・横嶋敬行・橋本萌・小山茂喜	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数 30人					
教員の連携・協力体制 教職科目担当教員が主となり担当する。教科科目担当教員と連携を取り、実務経験者や現職教員の協力を得ながら総合的な教員の資質の形成を図ると同時に、長野市教育委員会所管の中学校並びに長野県教育委員会所管の高等学校と連携を図り、臨床研究の充実を図る。					
授業のテーマ及び到達目標 4年次前期までに修得した内容を「教師としての使命感・責任感・教育的愛情に関する事項」「教師に求められる社会性・対人関係能力に関する事項」「生徒理解に関する事項」「教科内容等の指導力に関する事項」の4項目から各自確認し、4項目に関する各自の課題を明確し、教育臨床を含めた演習を通して、教員として必要な知識技能を修得することをめざす。					
授業の概要 各自の教職課程に関する1年次からの履修記録(ポートフォリオ)をもとに、「教師としての使命感・責任感・教育的愛情に関する事項」「教師に求められる社会性・対人関係能力に関する事項」「生徒理解に関する事項」「教科内容等の指導力に関する事項」の4項目についての達成状況を確認し、教職課程の最終段階での各自の課題と目標を設定する。 設定した目標に到達するための手段として、授業参観・模擬授業・フィールドワーク・教材開発等の教育臨床的内容を含む課題解決型の学習を各自が設定し、演習形式で教員として必要な知識技能を修得することをめざす。 なお、授業参観並びに授業分析等は教職担当教員が中心に、教材開発については教職担当教員と教科担当教員が協働で指導を行う。					
授業計画 第1回ガイダンス…「教員として必要な知識技能」の確認と各自の課題の明確化 第2回授業分析の手法を学ぶ 第3回カリキュラム・マネジメントを学ぶ 第4回カリキュラム・マネジメントの視点から、教育実習を振り返る。 第5～6回授業参観(視点を決めて) 第7回授業分析(現職教員からの指導) 第8回授業分析(授業記録の読み取り) 第9回授業分析の成果発表 第10回生徒指導と学級経営 第11回教材開発(素材から教材へ) 第12回教科指導と教科運営(ICT活用を含む) 第13回ICTを活用した学習指導案に再構成 第14回学校運営とマネジメント能力(校務の情報化を含む) 第15回成果発表					
テキスト					

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領 中学校学習指導要領解説「数学編」、高等学校学習指導要領解説「数学編」 中学校学習指導要領解説「理科編」、高等学校学習指導要領解説「理科編」 高等学校学習指導要領解説「工業編」、高等学校学習指導要領解説「情報編」
参考書・参考資料等 適宜紹介する。
学生に対する評価 臨床学習における取り組み（5割）・教材開授業分析等のレポート（5割）

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。